

れきみんだより

平成 22 年 9 月号
仙台市歴史民俗資料館
館長 土岐山 武
教師用 NO. 5



「もっこ」を貸し出します！

昨年度、貸し出しの要望が多かった「もっこ」（複製品）をお貸しいたします。貸し出し期間は1週間とさせていただきます。

（借りた曜日と同じ曜日までにお返してください。月曜日、祝日の翌日、第4木曜日は休館日ですので貸し出し・返却はできません。）

ご希望の学校はお気軽に館長までお電話ください。



もっこ（複製品）



資料館のこのような活用の
しかたはいかがでしょうか！

庶民のくらしと思い

当館には昭和 30 年代の農家のいろいろばたのある部屋が復元展示されています。この展示を他の展示と関連させながら、子供たちに見学させてみてはいかがでしょうか。

例えば、いろりを囲んで団らんをしている当時の家族を想像して見てください。彼らが身につけている衣服はどのようにして手に入れていたのでしょうか。実はほとんどが自分たちの手でつくったものなのです。どのようにして作ったのかは「農家の衣服」のコーナーを見ると分かります。

次に土間を見てください。きっと、履き物が並んでいたはずですよ。どんな履き物だったのでしょうか。「履き物」のコーナーを見ると、わらぞうり、わらぐつだったことが分かります。馬用のわらぐつもあったなどということは子供たちにとって驚きだと思います。わらを使った用具を作るとき、それをどのように編んだのかは「農家の手仕事」のコーナーを見ると分かります。

とかく、私たちは物事を一つ一つばらばらに考えがちですが、関連付けながら総合的に考えさせるのも「思考力」の高めるのに役立つように思えます。どうぞ当資料館をお役立ててください。

〒983-0842 仙台市宮城野区五輪1-3-7

TEL 022-295-3956 FAX 022-257-6401

URL <http://www.city.sendai.jp/kyouiku/rekimin/>

Eメール folkmuse@deluxe.ocn.ne.jp

歴史民俗資料館は当時の人々の技や知恵や努力、思いや願いを皆様に伝えます！

農家のいろいろばた

いろいろばたは特別の場所だったのです。一家だんらんの場だけではなく、炊事、食事、仕事の場であり、応接間、子供たちの遊び場でもありました。

赤々と燃えるいろり火を囲んで、どんなお話をしていたのでしょうか。そこで生活していた人々の心のぬくもりが伝わってくる思いがいたします。

農作業ができない冬の間は、いろいろばたで春にそなえた準備だけでなく、様々な生活用品や加工品、民芸品などを作っていた農家もあります。

いろいろばたでは、人々の力強い営みが行われていたことを子供たちにも感じ取らせたいものです。

水がめ

生活で使う水を蓄えておいた。



めしいじこ

ごはんの保温に用いた。



ざるおはち

暑さでごはんが悪くならないようにするため用いた。



はこぜん

各自が使用する食器を入れておいた。



いじこ

中に赤ちゃんを入れておいた。



はがまとかまど

ご飯をたいた。



ながし場

